

新年明けまして おめでとう御座います。

今年の干支は「壬寅」（みずのえ・とら）年です。「寅」は、もともと「演」が由来といわれ「人の前に立つ」という意味があり、演と同じ読みの「延（えん）」から「延ばす・成長する」という意味がもたらされているそうです。新しい日常が「始まる」年になり、これらの新しい芽が「成長する」年になって欲しいものです。

私たちを取り巻く社会状況は、決して安心で平和な状況にはありませんが、寅年にあって、家族や周りの世界の平穏を願い、更に成長しようとする意欲と広い視野・豊かな感性・深い思考をもって、希望の持てる一年にしていきたいと思えます。

67回という長い伝統の上に立つこの展覧会に、応募いただいた皆さん方の素晴らしい作品を展示して開催できる喜びを皆さんと共有します。入賞誠におめでとうございます。皆さん方の入賞を讃えたいと思えます。

糸島美術協会は、昨年12月28日、慎重なる審査を行いました。応募作品は、油彩、水彩、アクリル、鉛筆、立体造形の5ジャンルでした。いずれも甲乙付けがたい優れたもので、見る人の心を動かす味わい深い作品ばかりでした。年々応募される作品の芸術的な質の高まりを強く感じる審査会となったことを、先ずは報告しておきたいと思えます。

< 公募入賞作品の部（一般及び高校生） >

- ① 糸島美術協会賞 『裾野に輝く屋根』（水彩 F6） 平尾 斗喜男
描き手が切り取ったこの場面は、見慣れた糸島の風景の中で美しく感動した数多いスケッチの



中から選び出されたものであろう。背振山系から秋の日の柔らかな日差しが糸島平野に降り注ぎ、秋の実りが感じ取られる作品に、上手くまとめられた表現力は見事である。近景から遠景までよく工夫された、空気感漂う構図となっている。また、題名の付け方が素晴らしく、鑑賞者は輝く屋根にズームインされ、そこに暮らす人々の営みにまで思いが繋がる題名は高く評価したい。

- ② 糸島市長賞 『秋の白川郷』（鉛筆 F10） 白石 泰子
最近の糸島美術工芸展において、鉛筆画を見る機会が多くなってきている。この作品は、世界



遺産として登録された村で日本の原風景を想起させる場所でもあり、鑑賞者を強く惹きつけ臨場感溢れる作品に仕上がっている。

右手前には犬を連れた村人が、左側には、散策を楽しむ6人連れが、そして中央に配置された合掌造り家屋の三階には赤ちゃんを抱いた人物が描かれていて、描き手の温かな心に触れた思いがする。よく晴れた秋の日差しが差し込む手前の木立から中景の家屋、そして遠景の山々が、鉛筆を駆使した見事な表現力で描きこまれた素晴らしい作品である。

③ 糸島市教育委員会教育長賞 『私の家族』 (アクリル F50) 馬場 愛咲美



どうして、こんなにも素敵な犬が描かれるのだろうか。

眺めれば眺めるほどに、愛くるしいチワワへの愛情が読み取れる表現にまで昇華された作品になっている。

手に乗るほどの小さな命ある愛犬を家族とする描き手の想いが、F50号の大きさに描ききるエネルギーとなり、「単なる可愛い犬」とは異なる次元での表現が生み出されたと言えるのではないかと思う。今後の精進が楽しみである。

④ 奨励賞 『白雪姫とクマのぬいぐるみと』 (油彩 F10) 亜北斎



森の中の樹木がしっかりと根を張ったその上で、主人公の白雪姫がピアな眼(まなこ)で描き手を見つめている。主人公を「白雪姫」とするは、「目に入れても痛くもない」この幼子は孫娘か。描き手の想いが伝わってくる作品である(断言するのは亜北斎と名乗る事から推察する)

クマのぬいぐるみと白雪姫の背景の木立と草むらは、実に丁寧な筆さばきで表現されており、幼子を慈しむ思いさえ感じ取れる作品である。

⑤ 奨励賞 『彩のある暮らし』 (立体造形 84×60×6.8) 馬場 隆



題名『彩のある暮らし』から考える反対語として、「無機質な空間の暮らし」が浮かんでくる。

「温かな生活感漂う暮らしの造形」に挑戦しようとする意欲が伝わってくる作品である。これを飾れば、温かな部屋となり心穏やかな暮らしが生まれるのではとの期待感を感じ取れる。

長方形の板に色の違った4個のトイレットペーパーが取り付けられ、それが8枚作られて部屋に飾って、暮らしを豊かに楽しもう!と表現された作品である。

⑥ 奨励賞 『穂波』 (油彩 F20) 本田 衛



雷山山系を南にして広がる肥沃な糸島平野に実る稲穂が、見事なタッチで描かれた素敵な作品である。題名を「穂波」としたところに表現する主題が込められていると思う。

描かれた稲穂はびっしりと詰まって、その重みで、その穂先は垂れている。描き手は田園一帯に広がる稲穂の流れを大きく捉えて、動きある流れとして描いているところが、この作品の持つ素晴らしさであろう。

⑦ 奨励賞 『ヒヴァの扉』 (油彩 F30) 松本 一喜



中央アジアのオアシス都市ヒヴァは、ウズベキスタン西都ホレズム州に位置する古代都市の1つで、「東洋の中世建築の真珠」とも呼ばれている所である。ヒヴァは、二つの巨大国家である中国とローマを結ぶシルクロードの重要拠点であり続けて繁栄した都市で、ここを旅した描き手は、時空を超えた印象的な感動を表現したものと考ええる。

扉は何処でも見られる物ではあるが、異国で見た歴史の重みを感じさせる一枚一枚の板で作られた扉は特別の物として迫ってきたその想いが絵画として向き合った契機を持つ作品であろう。扉に焦点を当てて、古臭い何とも言えない色彩で描かれた扉は、観るものにも問いかけてくるようだ。

⑧ 奨励賞 『姉子の浜』 (水彩 F6) 山口 克洋

姉子の浜は、糸島観光名所の一つに数えられる風光明媚な景色である。



その自然の美しさに魅了されて制作された作品であり、この地の良さを淡い色彩で抑え気味に描かれている。

近景の鳴き砂、中景の風に吹かれての白波、遠景の可也山が心地よい構図で描かれていて、打ち寄せる波の音が聞こえてきそうである。実によく対象に向き合い、対象を細かに捉える確かな表現力がこの作品の良さを引き出している。空の描写も上手く表現されて心静かに味わえる作品である。

< 糸島美術協会員入賞作品の部 >

- | | | | |
|------------|--------------|------------|--------|
| ① 福岡県美術協会賞 | 『カサブランカ』 | (アクリル F20) | 福井 迪子 |
| ② 糸島市議会議長賞 | 『グリーンシャワー』 | (水彩 F30) | 川上 幸太 |
| ③ 糸島新聞社賞 | 『静寂』 | (油彩 F20) | 平田 昭二 |
| ④ 会員奨励賞 | 『冬麗 (ふゆうらら)』 | (油彩 F15) | 梅田 仲子 |
| ⑤ 会員奨励賞 | 『桜島』 | (油彩 F20) | 福田 カズ子 |

①



②



③



④



⑤



終わりに

(1) 糸島美術協会の願い

郷土糸島の文化向上 → 年2回の作品展や写生旅行、実技講座 → 心豊かな地域づくり=作品づくりを通しての交流・豊かな人間関係を大切に！=糸島美術協会へのお誘い

(2) 今後に向けて

芸術活動は創造的活動であり、自己を表現していく営み。
対象と向き合い、自分を表出していく営み。(豊かな感性・感覚を磨く営み)
オリジナル 模倣でない自分の創造性で生まれた作品づくり

(3) 第68回糸島美術工芸展へ取組

自分のテーマをしっかりと追求し研鑽を積んで、出品を！